

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 調査報告概要表

作成日 2008年12月12日

【評価実施概要】

事業所番号	"0176400034
法人名	社会福祉法人 萌寿会
事業所名	グループホーム 萌寿園
所在地	留萌市沖見町6丁目18番地6 (電話) 0164-43-6822

評価機関名	(有)NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成 20 年 12 月 2 日

【情報提供票より】(20年 10月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 1 月 10 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8人 常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 8人

(2)建物概要

建物構造	木造造り	
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	13,500 円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4)利用者の概要(12月2日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2	0名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.1歳	最低	75歳	最高	99歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	留萌市立病院・川上歯科クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設5年目を迎えるグループホームで、併設の母体法人特別養護老人ホームと共に、地域との関わりを大切にし、夏祭り等の行事を通して、地域との交流を図っています。建物は回廊式となっており、広く、開放的な造りとなっており、居間からは、日本海が望め、素晴らしい景色や夕日を楽しまれています。職員は利用者と一緒に野菜を栽培し、その野菜を利用した漬物作りを行うなど、四季を感じたり、利用者の持つ力を発揮できる場を設けています。利用者職員は笑顔に溢れ、利用者が自分のペースで日々を過ごせるよう、職員は環境作りに励み、利用者は、安心して日々過ごすことができています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、運営推進会議が行われておらず、開催向け運営委員の人選や資料の収集に取り組んでいましたが、今年度第1回の開催が実現しています。昨年の評価で指摘のあった意見箱も直後に話し合いがされ設置されています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>スタッフ会議の中で、自己評価の意義を話し合い理解した上で、全職員一人ひとりが自己評価を作成し、再度スタッフ会議で話し合わせ、管理者がまとめ自己評価表が作成されています。前回の評価で指摘のあった課題については、管理者の交代もあり、現在も継続して検討がされています。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営委員は、町内会長、家族会代表、市の介護保険課、民生委員、法人代表者の方々が参加し、今年度は第1回目が開催されています。グループホームについての説明等が行われましたが、具体的な意見交換までには至ってはいません。管理者の交代や職員の異動等、新たな体制の落ち着いた状態を見極め、今後の開催時期についての検討がされています。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月、利用者の様子や身体状況などを、「個人便り」でご家族に報告しています。また、ご家族の来訪時や電話などで細かな報告に努めています。職員の異動、離職については、行事等で来訪された時に紹介がされています。利用者への日々の声かけ、利用者ご家族の来訪時の声かけにより、意見、要望が言えるよう配慮がされています。昨年の評価で指摘のあった意見箱も直後に話し合いがされ設置されています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人が町内会、自治会に加入し、地域の情報を収集し、地域小学校や幼稚園の運動会、学芸会に参加しています。グループホームにも、地域小学校や幼稚園の子供達が訪れ、利用者は、折り紙やお絵かきを共に楽しんでいます。また、法人開催の夏祭り等行事を開催し、地域ボランティアの方々とも交流を図っています。</p>

(有)NAVIRE

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立法人が開設以来掲げている理念を、職員は理解し、サービスの質の向上に取り組んでいます。	○	開設以来法人の理念は掲げられていますが、今後、事業所独自の地域密着型サービスとしての理念を、検討されることを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務室、台所等に理念が掲示されています。会議やミーティングを利用し、理念の共有と実践に向けた取り組みがされています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人が町内会、自治会に加入し、地域の情報を収集し、地域小学校や幼稚園の運動会、学芸会に参加しています。グループホームにも、地域小学校や幼稚園の子ども達が訪れ、利用者は、折り紙やお絵かきを共に楽しんでいます。また、法人開催の夏祭り等行事を開催し、地域ボランティアの方々とも交流を図っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ会議の中で、自己評価の意義を話し合い理解した上で、全職員一人ひとりが自己評価を作成し、再度スタッフ会議で話し合わせ、管理者がまとめ自己評価表が作成されています。前回の評価で指摘のあった課題については、管理者の交代もあり、現在も継続して検討がされています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員は、町内会長、家族会代表、市の介護保険課、民生委員、法人代表者の方々が参加し、今年度は第1回目が開催されています。グループホームについての説明等が行われましたが、具体的な意見交換までには至っていません。管理者の交代や職員の異動等、新たな体制の落ち着いた状態を見極め、今後の開催時期についての検討がされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市で開催される研修会への参加や市からの依頼で、実習生の受け入れがされています。市と法人の連携は密であるが、グループホームとしては、法人からの情報や資料の提供を受けるにとどまっているため、今後の課題とされています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の様子や身体状況などを、「個人便り」で家族に報告しています。また、家族の来訪時や電話などで細かな報告に努めています。職員の異動、離職については、行事等で来訪された時に紹介がされています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者への日々の声かけ、利用者家族の来訪時の声かけにより、意見、要望が言えるよう配慮がされています。昨年の評価で指摘のあった意見箱も直後に話し合いがされ設置されています。	○	「個人便り」により、利用者の状況が細かに報告がされているため、アンケート等による家族の満足度は高く、家族が安心されていることが伺えますが、家族とのコミュニケーションの場を作ることで、苦情、要望等意見を吸上げ、家族と共にケアできるような工夫をされることを期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者、職員の異動がありましたが、職員同士の十分な引き継ぎや、利用者きちんと紹介するなど、ダメージを防ぐように努めています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部での各会議、ミーティング内で研修がされています。また、実習方式で働きながら学び、日々のケアに活かされています。	○	救急救命講習を受けていない職員もいるので、その必要性に鑑み、救急救命講習をなるべく早期に全職員が受講できるよう期待します。また、内部・外部研修会に参加出来ない職員に、資料を配布するなど、スキルアップについて工夫されることを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、管理者同士の電話による意見交換等にとどまり、職員全体として交流は行われていません。法人内の施設職員との交流や協力は、密に行われています。	○	同業他施設との勉強会、意見交換等ネットワークを通してサービスの質の向上に取り組まれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人、家族と面談した後、入居となっています。本人が、納得した上の入居が困難な場合もありますが、家族等と十分に話し合い、個々に合わせた入居方法で対応しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と一緒に花壇の草取りや野菜作り、食事の後片付け等を行い、利用者との日々の関わりの中で、支えあう関係を築いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、入居者の希望や意向の把握に努め、希望に沿った生活支援を行っています。ミーティング等を通して、職員間で情報の共有がされています。また、家族の来訪時や電話等でも利用者の希望や意向の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回のケア会議や毎日行われるケアミーティング等で、介護計画について、職員全員の意見交換を経て、作成されています。	○	日々の記録は経過のみを記すのではなく、介護計画に基づいた実践を行い、その実績・結果・気づき・様子などの記録となるよう書式の工夫や体制整備を期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に一度の見直しが行われています。又、状況に変化があったときには、その都度話し合いを持ち、見直しがされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の希望や状況に応じて、通院、買物、ドライブ、馴染みの美容室に出掛ける等、出来る限りの柔軟な対応に心掛けて支援されています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診支援が行われ、受診内容は家族に報告されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応については、その状況になった場合に、家族やかかりつけ医と話し合い、方針を共有する体制をとっています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個々状況を十分に把握し、誇りやプライバシーを損ねることのないよう、ミーティング等で話し合わせ、ケアの統一が図られています。また、個人記録の保管場所の管理もされています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々に合わせた対応がされています。希望に出来る限り副うことが出来るよう、支援されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が、同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるように雰囲気作りをされています。また、職員と一緒に、配膳、下膳、後片付けも行われています。菜園で収穫された野菜で漬物作りや献立に取り入れれたり、利用者の希望を聞きながらの献立作りをされています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の状況や本人の希望を確認し、週3回の入浴ができるよう支援されています。入浴方法も、家族と相談し、個々に合わせた対応がされています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の役割として決め付けることなく、得意分野で、負担なく個々の力を発揮できるような場面作りをし、それぞれの活躍の場を支援しています。また、楽しみ事として職員と一緒に、ホーム内の季節の飾り物作成なども行われています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事に、ドライブや外食等外出行事を多く取り入れ、気分転換や季節感を味わうことの支援がされています。月に2回程度、法人の特別養護老人ホームの方々との交流の機会を設けています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵はかけていません。ホーム玄関内ドアに、ドアベルの設置がされています。外出傾向にある場合の対応も、隣接の法人職員の見守り応援等で、安全面に配慮しながら支援されています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、利用者も数名参加し、避難訓練が行われています。地域住民組織の「災害協力会」と、連携を図りながら協力体制が築かれています。法人全体としての連絡網や非常用備品、備蓄はありますが、ホーム独自の体制には至っておりません。	○	グループホーム独自の連絡網、避難経路の確認確保等起こりうる非常時を想定し、より具体的に研修、訓練されることを期待します。地域の防災避難場所等、家族へも周知し、安心、安全に暮らせるケアに向け支援されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの水分摂取量、食事量などは個別に記録され、職員間で共有されています。利用者の身体状態に応じて、とろみをつけるなど、摂取しやすい工夫をされていますが、栄養バランスや栄養摂取量等の把握までには至っていません。病気食の方へは、ドクターの指示のもと話し合いがされ、調理されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広くゆったりとした居間や廊下、対面に対話のできる台所など、明るく開放的な造りとなっています。また、季節を感じることができる飾り物などがあり、利用者が居心地よく過ごせる空間となっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、利用者、家族が個々の使い慣れた家具や飾りものが自由に持込まれ、自分らしく配置されています。		